

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょ

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あやめの里
(ユニット名)	1丁目
所在地 (県・市町村名)	宮城県多賀城市留ヶ谷3丁目23-15
記入者名 (管理者)	星 ひとみ
記入日	平成 20 年 10 月 6 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念の他に、ユニット毎の理念を上げ実施している。	○ ユニットの理念として、その人らしく生活して頂ける様取り組んでいる。又、地域のイベント等への参加も積極的に行なっている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	フロア長会議やカンファレンスで話し合う機会を設け、実践の中で活かされる様方針を確認している。	○ やさしい声掛けを重視し、一人ひとりに合わせたケアの取り組みを行なっている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	定期的に運営推進会議を開催し、地域密着型施設として理解して頂けるよう取り組んでいる。	○ 地域行事の参加や広報誌の発行により、理解して頂けるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の際、気軽に挨拶を交わしたり日常的な交流を行なっている。又、入居者様の知人が近所におり、行き来し交流を深めている。	○ 近所の方の家庭菜園より野菜を頂いたり、日常的な付き合いをしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会への加入、地域行事への参加、ボランティアの方による踊りの会の開催など交流に努めている。	○ 事業所が開催している「いも煮会」へ町内の子ども会にも参加して頂くよう予定している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が認知症サポーターとして登録し、認知症になっても安心なまちづくりの一翼を担うキャラバン・メイトとして講習を行なった。	○	今後も施設として地域に貢献できる事はないか、運営推進会議等で話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について話し合い、全員で外部評価に取り組んでいる。改善すべき事がある場合も、常時話し合い改善に取り組んでいる。	○	評価、指導に対し即、対策を立て改善に向けての話し合いを行っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設側の報告及び参加者からの意見、要望を受け、質の向上に活かしている。家族様からの要望や意見は必ず実施し、結果の報告を行っている。	○	ご家族や地域の方から出た意見、要望について話し合い即、より良いサービス提供に向け実施している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャー連絡会議への参加、困難事例の相談等を行い支援して頂いている。	○	今後も連携や話し合いを持ち、施設の理解を深めて頂くため、積極的に関わりを持っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会には設けてはいないが、制度自体を理解しており、入居者様の中には実際に活用している方もいる。	○	必要な方には活用できるよう支援を行なっている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの中で自己のケアを振り返り、虐待につながるケースがないようよく話し合っている。	○	ネグレストに関しても注意を払い、全員が理解を深め認識していくよう常に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に分かりやすく書かれていると共に、契約の際分かりやすく十分な説明を行なっている。	○ 契約時以外にも、不安や疑問点解消のため随時、納得がいくよう説明を行なっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の苦情、不満をはよく聞き入れ改善に努めている。利用者様に最良の方法を選択していただいたり、職員で話し合いを持ち利用者様に提示し運営に反映させている。	○ カンファレンス等で問題点を話し合い、情報の共有に努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者様の生活、健康状態は状況に応じ随時報告をしている。金銭管理に関しては、出納状況を毎月送付している。職員異動や退職は運営推進会議等で必ず報告している。入居者様には個々に合わせ報告をしている。	○ 家族の来訪時には必ず具体的に報告しており、来訪が困難な家族に対しては、電話で状況を伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で不満、苦情を聞き入れ問題解決に向け討論し改善に取り組んでいる。	○ 第三者委員会を設置し苦情相談の窓口になって頂き、サービスの質の向上に努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、フロア長会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	○ 職員の意見や提案は出来る限り運営に反映されるよう努力している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1の人員基準をもとにケアに支障をきたさないよう調整に努めている。早朝や夜間の状況変化にも柔軟な対応を行なっている。	○ 入居者様や家族の突発的な状況に応じ、敏速に対応できる体制を整えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員移動はフロア内の状況を見極め、入居者の心理的負担にならないよう必要最小限の範囲で行なっている。	○ 入居者様の心理的負担に配慮し、一人一人の状態、対応の仕方について、職員は密に連携をとり取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内部研修の実施や外部研修への参加の確保に努めている。	○	認知症実践者研修等の受講など、正社員やパート職員に入社順に受講してもらい、チームの一員として参加の機会を設けている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者と定期的に交流を持ち情報交換に努めている。	○	2市3町のケアマネジャー協会に加入し交流を図っている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の相談は管理者、フロア長により対応されている。	○	ストレスを軽減するため職員間で交流をもち軽減に努めている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修の充実をし個々のスキルアップを図る	○	職員一人ひとりの功績や実績を踏まえ、評価されるよう形にしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の面談において、生活歴、ニーズ、不安な事を把握し信頼関係を築く努力をしている	○	常に本人と会話を持つよう心掛けており、ニーズにあったサービスと環境づくりに努力している。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の相談時や来訪時に家族のニーズ、不安な事をよく聞き受け止めるよう努力している。	○	不安を取除いて頂けるよう常時相談を受けると共に、親しみやすい雰囲気作りを行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている事を見極め、調整しながら必要に応じ外部のサービス利用も行なっている。	○	福祉用具や通院介助等の利用も個々に合わせ行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に雰囲気を味わって頂くため、家族や担当ケアマネと十分に話し合い、本人が見学に来れる様調整も行なっている。また、体験入居の支援も行っている。	○	入居前でもご本人に施設に訪訪していただき、個々にあった柔軟な対応をして安心していただけるよう取り組んでいる。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者様と同じ時間や空間を通じて得意の分野で力を発揮できるよう導く努力をしている。	○	入居者様から昔の生活文化を教えていただいたり、料理や子育て等についても学ぶ事ができ、お互いに感謝の気持ちを持ち過ごす事ができている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時情報交換を行なっている。不安や疑問点に対し共に親身に考え、信頼の構築に努めている。	○	外食や行事に共に過ごす事が出来るように参加して頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族間の情報を可能な限り収集し、関係の理解を深め、双方がより良い関係作りの支援をしている。	○	行事への参加、一緒に過ごせる空間づくりの提供を行なっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人など常時面会可能であり、行事等の参加支援を行なっている	○	家族や友人宅、馴染みの場所への訪問支援など、関係維持に努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑に取れるよう、性格や相性を配慮しお互い支えあえるように努めている。	○	職員は利用者同士の関係や相性を把握しており、それに合わせた対応に取り組む事ができる。又、トラブルが大きならないように、職員の介入を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談等は随時行ない、継続的な付き合いが出来るよう努めている。	○	困難なことがあり相談を必要としている方に相談業務を行なっている。また、退去者ご本人から元気になっていると連絡が入る場合があり、関係継続に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い生活暦や、本人の意向を重視し支援に取り組んでいる。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い個々の情報を整理するとともに、モニタリングを実施し経過の把握に努めている。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状況変化の記録をおこなっており、健全に生活を送れる様に努めている。	○	観察、記録、申し送り等密に行なっており現状の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて本人の視点で意見交換をおこない、家族の意向も反映させながら、介護計画を作成している。	○	本人の視点に立った必要な支援を含めた、介護計画の作成は実施され取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族等と意見交換を行ないながら、必要に応じて3ヶ月に一度の見直しを行なっている	○	状態に変化があった場合は家族や関係機関の助言も頂きその都度見直しを行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況簿、申し送りノート、さらに状態を詳細にするための、個人情報ファイルを作成し情報の共有を行なっている	○	職員がいつでも記入でき情報を共有できるように個別の情報ファイルを活用し全員で検討し介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には、状況に応じ買い物、通院、送迎、外出の付き添いをおこない、柔軟な支援をおこなっている。	○	必要に応じ出来る限り柔軟な支援に取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館、ボランティアは定期的にご利用しており、民生委員や地区の区長とも協力しながら支援している。	○	定期的にボランティアによる演芸会の開催を行い、地域資源の活用をし支援している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、他事業所のケアマネジャーと連携を取り支援しに取り組んでいる。	○	デイケア通所や福祉用具等の支援に取り組んでいる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネ連絡会議等の参加や困難事例の相談において協働している。	○	今後も連携を取りながら、積極的に協働して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科、歯科医師がホームドクターとして確保され、また個人のかかりつけ医師と連携しながら支援している。	○	本人、家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人のかかりつけ医である認知症専門医に定期的に支援して頂いているケースがある。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医師、看護師と密に情報交換を行い、指示を仰ぎながら健康管理の支援を行なっている。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と終始連携を取り、早期退院に向けたとりくみを行なっている。	○	早期退院に向け施設側も受け入れ態勢を整え、医師と連携を取り努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、早期より状況の変化に応じて、家族、医師、関係機関と話し合いを行なっている。	○	重度化に伴って看取りに関して書面上の取り決めを行っており全員で方針を共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極め、医療機関と連携をとり統一した方針で行なっている	○	状態の変化に応じ、医療機関の受け入れ態勢等の検討を段階的に話し合いを行い取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の意向を尊重し十分な話し合いを持ち、情報交換に努めている。	○	本人にかかわる関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行なうことで、住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様を尊重した声かけや居室への出入りは了解を得て行なっている。落ち着いた態度と笑顔で接する事を基本としている。個人情報の重要性は全スタッフが理解しており、十分注意を払い取り扱っている	○ 入居者一人一人の性格を見極め、相手に合わせた言葉掛けを行い、スピーチロックにならないよう取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常日頃から利用者が、自分の生活を自分で方向づけられるよう、職員の思いを押し付けるのではなく、利用者の思いを傾聴する事を最優先している。	○ 入居者が意思表示しやすい環境や場面づくりの支援を行なっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から希望や要望があった際には、生活のペースを乱さないよう支援している。	○ 一人一人のペースは異なるが、その人なりのペースがあり、それを全スタッフは大切に考え取り組む事ができている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望があれば、定期的に来訪してくれている床屋に散髪の支援を行い、本人の希望に沿い行きつけの床屋にお連れする支援を行なっている	○ 近所の床屋が2ヶ月に一度来訪し散髪を行なっている。また、本人の思いを尊重する支援も取り組んでいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ食卓を囲み、楽しみながら食事を摂っている。食事作り、盛り付け、後片付けも一緒に行なうことで生活リハビリも兼ね、楽しく暮らせるよう支援している。	○ 利用者の好みや苦手な物を踏まえ変化を加えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康を損なわない程度の嗜好品を提供し、時には外食を取り入れながら、生活していく上で楽しみを持ってもらえるよう支援している。	○ 買い物に出掛けなるべく希望に沿った提供に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁が多いからといって安易におむつやリハビリパンツを使用するのではなく、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行っており、羞恥心に配慮した声がけを徹底している。	○	排泄パターンをチェック表により把握し、前誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の可否については本人の自己決定を優先し、突発的な入浴の希望があった時も臨機応変に対応できるよう職員間で連携を図っている	○	利用者の希望が重視され、回数や入浴時間の制限はしておらず、毎日気持ちよく生活できるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活暦にあわせ、職員の都合に合わすことなく、本人の好きな時間に休めるよう支援し、就寝された時は騒音を出さないよう支援している。	○	入居者一人一人の睡眠パターンが把握されており、不眠傾向の方へは生活の働きかけが行なわれ、安眠が得られるよう支援を行なっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の「できること・できないこと」を見極め、毎日の習慣として楽しみながらできることの支援をしている。	○	毎日の活動として個々の力量に合わせて取り入れるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の金銭管理能力を把握し、その力量に応じた対応を行なっている。	○	金銭管理が出来る利用者には、所持していただき買い物の際、使えるように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、園芸、買い物に出掛けたり、ホーム外に出る事で気分転換を図り、毎日の生活が単調にならないよう支援している。	○	入居者の希望に沿い馴染みの場所へ出掛けたり、天気の良い日は、車椅子の方も戸外へ出るよう積極的に支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設行事の参加、花見、いも煮会、外食を企画し利用者や家族のコミュニケーションを図り、刺激のある生活が出来るよう支援している。	○	利用者の状況に応じ、無理のない範囲で家族と出掛けられる機会の援助に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり手紙を書いたりの支援を行っている	○	利用者様の意思行いたいことは、これからも尊重し取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人が自由に訪問でき居室でのだんらんが常時出来るようになっている。	○	家族、友人との外食の支援を行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束がないケアを行っている。	○	転落の危険がある方へは、骨折等の予防のため、やむ負えずベット柵を使用する場合は、書面により家族の許可を得るように取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロック式になっているが、天気の良い日は解錠している。	○	利用者の外出傾向を把握し、孤立、閉鎖的にならないよう努めているが、事故防止(外部からの侵入防止)の為に普段は施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の居室での様子確認を含め、定期的に安全確認をおこなっている。	○	常時利用者の所在を把握し、職員はさりげない配慮で安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみ等は利用者の手の届かない所に保管している。はさみや爪切りは要望があれば、お貸しし付き添い見守るようにしている。	○	安全確保をしつつ、利用者の状況に合わせて対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬についてはダブルチェックの徹底と見守りの強化を行っている。	○	利用者の身体状況をよく把握し、対応するよう指導の取り組みが行われている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	急変や事故発生時にスムーズな対応が出来るよう、訓練を定期的に行なえるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	地域で実施されている防火訓練に利用者も参加できるよう取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	○	家族の意向も大切にし、安全に安心して暮らせるよう対応策を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	毎日の身体状況のチェックと状態を、全員が把握できるよう記録に残している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○	誤訳、飲み忘れに細心の注意を払い、名前、日付等のダブルチェックを行い、確認の上行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	医療機関と連携を取りながら予防に努め、散歩、体操を取り入れながら予防に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	食後の歯磨きやうがいの取り組みを行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を作成しており、体重管理は2週間に一度行い支援している。また、栄養のバランスやカロリーは提携している管理栄養士により支援されている。入居者様の状態に合わせて刻み食等の提供も行っている。	○	本人の嗜好を考慮し、時には本人の食べたい食品を購入し支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが作成されており実践されている。	○	利用者、職員、面会者も手洗いうがいを遂行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルが作成されており実践されている。	○	毎日、担当者がマニュアルに従い遂行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りの表札が掛けられ、家庭的な雰囲気作りの工夫に取り組んでいる	○	親しみやすい玄関を心掛けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、浴室の入り口にはのれんが掛けられ、廊下の壁には手作りの物が飾られ、家庭的な雰囲気作りに配慮している。	○	テレビ音や声のトーン、室温に配慮すると共に心地よく過ごせる工夫に取り込んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼のスペースや廊下、玄関に椅子やソファを設置し、居場所に対する配慮を心掛けている。	○	食堂の席の配置を十分に考慮し、入居者一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ依頼し、なじみのものを持ってきて頂き、本人が落ち着いて過ごせるように配慮している。	○	本人が今まで使用してきた家具など持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況や季節にあわせ、温度管理を行なっている。	○	換気はまめに行い、外気温と差がないよう配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、障害物や危険物は除去し、残存機能の維持に努めている。	○	居室にも手すり設置の配慮に取り組んで生きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには見やすい位置に大きく表示し、各部屋にも表札やのれん、写真等を貼り工夫している。	○	一人ひとりの力量に合わせた取り組みを行なっている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節を感じられるように、草花を植え楽しめるように工夫している。	○	利用者と職員が楽しみながら、一緒に草取りをすることで、活動の場となるよう取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族のような温かい雰囲気作り信頼関係の大切さを重視しています。スタッフ一人ひとりが、優しい声がけを常に心掛

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含まれます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含まれます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あやめの里
(ユニット名)	2丁目
所在地 (県・市町村名)	宮城県多賀城市留ヶ谷3丁目23-15
記入者名 (管理者)	星 ひとみ
記入日	平成 20 年 10 月 6 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念の他に、ユニット毎の理念を上げ実施している。	○	ユニットの理念として、共に笑顔で楽しく生活していけるよう取り組んでいる。又、地域のイベント等の参加も積極的に行なっている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	フロア長会議やカンファレンスで話し合う機会を設け、実践の中で活かされるよう方針を確認している。	○	「共に笑顔で」明るく生活していただける様、職員間で話し合い連携を取っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	定期的に運営推進会議を開催し、地域密着型施設として理解して頂けるよう取り組んでいる。	○	地域行事の参加や広報誌の発行により、理解して頂けるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	毎日行なっている散歩の際、気軽に挨拶を交わしたり日常的な交流を行なっている。	○	近所の方の家庭菜園より野菜を頂いたり、子供たちとキャッチボールをしたり、日常的な付き合いをしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会への加入、地域行事への参加、ボランティアの方による踊りの会の開催など交流に努めている。	○	事業所が開催している「いも煮会」へ町内の子ども会にも参加して頂くよう予定している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が認知症サポーターとして登録し、認知症になっても安心なまちづくりの一翼を担うキャラバン・メイトとして講習を行なった。	○	今後も施設として地域に貢献できる事はないか、運営推進会議等で話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。改善すべき事がある場合も、常時話し合い改善に取り組んでいる。	○	評価、指導に対し即、対策を立て改善に向けての話し合いをおこなっていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設側の報告及び参加者からの意見、要望を受け、質の向上に活かしている。家族様からの要望や意見は必ず実施し、結果の報告を行っている。	○	ご家族や地域の方から出た意見、要望について話し合い即、より良いサービス提供に向け実施している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャー連絡会議への参加、困難事例の相談等を行い支援して頂いている。	○	今後も連携や話し合いを持ち、施設の理解を深めて頂くため、積極的に関わりを持っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会には設けてはいないが、制度自体を理解しており、入居者様の中には実際に活用している方もいる。	○	必要な方には活用できるよう支援を行なっている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの中で自己のケアを振り返り、虐待につながるケースがないようよく話し合っている。	○	ネグレストに関しても注意を払い、全員が理解を深め認識していくよう常に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に分かりやすく書かれていると共に、契約の際分かりやすく十分な説明を行なっている。	○ 契約時以外にも、不安や疑問点解消のため随時、納得がいくよう説明を行なっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の苦情、不満をはよく聞き入れ改善に努めている。利用者様に最良の方法を選択していただいたり、職員で話し合いを持ち利用者様に提示し運営に反映させている。	○ カンファレンス等で問題点を話し合い、情報の共有に努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者様の生活、健康状態は状況に応じ随時報告をしている。金銭管理に関しては、出納状況を毎月送付している。職員異動や退職は運営推進会議等で必ず報告している。入居者様には個々に合わせ報告をしている。	○ 家族の来訪時には必ず具体的に報告しており、来訪が困難な家族に対しては、電話で状況を伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で不満、苦情を聞き入れ問題解決に向け討論し改善に取り組んでいる。	○ 第三者委員会を設置し苦情相談の窓口になって頂き、サービスの質の向上に努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、フロア長会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	○ 職員の意見や提案は出来る限り運営に反映されるよう努力している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1の人員基準をもとにケアに支障をきたさないよう調整に努めている。早朝や夜間の状況変化にも柔軟な対応を行なっている。	○ 入居者様や家族の突発的な状況に応じ、敏速に対応できる体制を整えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員移動はフロア内の状況を見極め、入居者の心理的負担にならないよう必要最小限の範囲で行なっている。	○ 入居者様の心理的負担に配慮し、一人一人の状態、対応の仕方について、職員は密に連携をとり取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内部研修の実施や外部研修への参加の確保に努めている。	○	認知症実践者研修等の受講など、正社員やパート職員に入社順に受講してもらい、チームの一員として参加の機会を設けている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者と定期的に交流を持ち情報交換に努めている。	○	2市3町のケアマネジャー協会に加入し交流を図っている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の相談は管理者、フロア長により対応されている。	○	ストレスを軽減するため職員間で交流をもち軽減に努めている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修の充実をし個々のスキルアップを図る	○	職員一人ひとりの功績や実績を踏まえ、評価されるよう形にしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の面談において、生活歴、ニーズ、不安な事を把握し信頼関係を築く努力をしている	○	常に本人と会話を持つよう心掛けており、ニーズにあったサービスと環境づくりに努力している。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の相談時や来訪時に家族のニーズ、不安な事をよく聞き受け止めるよう努力している。	○	不安を取除いて頂けるよう常時相談を受けると共に、親しみやすい雰囲気作りを行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている事を見極め、調整しながら必要に応じ外部のサービス利用も行なっている。	○	福祉用具や通院介助等の利用も個々に合わせ行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に雰囲気を味わって頂くため、家族や担当ケアマネと十分に話し合い、本人が見学に来れる様調整も行なっている。また、体験入居の支援も行っている。	○	入居前でもご本人に施設に訪訪していただき、個々にあった柔軟な対応をして安心していただけるよう取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者様と同じ時間や空間を通じて得意の分野で力を発揮できるよう導く努力をしている。	○	入居者様から昔の生活文化を教えていただいたり、料理や子育て等についても学ぶ事ができ、お互いに感謝の気持ちを持ち過ごす事ができている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時情報交換を行なっている。不安や疑問点に対し共に親身に考え、信頼の構築に努めている。	○	外食や行事に共に過ごす事が出来るように参加して頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族間の情報を可能な限り収集し、関係の理解を深め、双方がより良い関係作りの支援をしている。	○	行事への参加、一緒に過ごせる空間づくりの提供を行なっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人など常時面会可能であり、行事等の参加支援を行なっている	○	家族や友人宅、馴染みの場所への訪問支援など、関係維持に努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑に取れるよう、性格や相性を配慮しお互い支えあえるように努めている。	○	職員は利用者同士の関係や相性を把握しており、それに合わせた対応に取り組む事ができる。又、トラブルが大きくなるように、職員の介入を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談等は随時行ない、継続的な付き合いが出来るよう努めている。	○	困難なことがあり相談を必要としている方に相談業務を行なっている。また、退去者ご本人から元気になっていると連絡が入る場合があり、関係継続に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い生活暦や、本人の意向を重視し支援に取り組んでいる。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い個々の情報を整理するとともに、モニタリングを実施し経過の把握に努めている。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状況変化の記録をおこなっており、健全に生活を送れる様に努めている。	○	観察、記録、申し送り等密に行なっており現状の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて本人の視点で意見交換をおこない、家族の意向も反映させながら、介護計画を作成している。	○	本人の視点に立った必要な支援を含めた、介護計画の作成は実施され取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族等と意見交換を行ないながら、必要に応じて3ヶ月に一度の見直しを行なっている	○	状態に変化があった場合は家族や関係機関の助言も頂きその都度見直しを行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況簿、申し送りノート、さらに状態を詳細にするための、個人情報ファイルを作成し情報の共有を行なっている	○	職員がいつでも記入でき情報を共有できるように個別の情報ファイルを活用し全員で検討し介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には、状況に応じ買い物、通院、送迎、外出の付き添いをおこない、柔軟な支援をおこなっている。	○	必要に応じ出来る限り柔軟な支援に取り組んでいる。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館、ボランティアは定期的にご利用しており、民生委員や地区の区長とも協力しながら支援している。	○	定期的にボランティアによる演芸会の開催を行い、地域資源の活用をし支援している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、他事業所のケアマネジャーと連携を取り支援しに取り組んでいる。	○	デイケア通所や福祉用具等の支援に取り組んでいる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネ連絡会議等の参加や困難事例の相談において協働している。	○	今後も連携を取りながら、積極的に協働して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科、歯科医師がホームドクターとして確保され、また個人のかかりつけ医師と連携しながら支援している。	○	本人、家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人のかかりつけ医である認知症専門医に定期的に支援して頂いているケースがある。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医師、看護師と密に情報交換を行い、指示を仰ぎながら健康管理の支援を行なっている。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と終始連携を取り、早期退院に向けたとりくみを行なっている	○	早期退院に向け施設側も受け入れ態勢を整え、医師と連携を取り努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、早期より状況の変化に応じて、家族、医師、関係機関と話し合いを行なっている。	○	重度化に伴って看取りに関して書面上の取り決めを行っており全員で方針を共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極め、医療機関と連携をとり統一した方針で行なっている	○	状態の変化に応じ、医療機関の受け入れ態勢等の検討を段階的に話し合いを行い取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の意向を尊重し十分な話し合いを持ち、情報交換に努めている。	○	本人にかかわる関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行なうことで、住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様を尊重した声かけや居室への出入りは了解を得て行なっている。落ち着いた態度と笑顔で接する事を基本としている。個人情報の重要性は全スタッフが理解しており、十分注意を払い取り扱っている	○ 入居者一人一人の性格を見極め、相手に合わせた言葉掛けを行い、スピーチロックにならないよう取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常日頃から利用者が、自分の生活を自分で方向づけられるよう、職員の思いを押し付けるのではなく、利用者の思いを傾聴する事を最優先している。	○ 入居者が意思表示しやすい環境や場面づくりの支援を行なっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のペースが尊重された柔軟な支援が行なわれている。	○ 一人一人のペースは異なるが、その人なりのペースがあり、草むしりをしたり、ハーモニカを吹いたり思い思いのペースが尊重され、それを全スタッフは大切に考え希望に沿って支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望があれば、定期的に来訪してくれている床屋に散髪をしていただいている。また、個別にカラーリングの支援も行っている。	○ 近所の床屋が2ヶ月に一度来訪し散髪を行なっている。また、本人の思いを尊重する支援も取り組んでいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手な物を踏まえ、臨機応変に対応している。職員も利用者と同じ食卓を囲み同じ物を食べている。片付けも利用者の個々の力を発揮していただく取り組みを行なっている	○ 食事中はテレビを消しラジオを流して、話しやすい雰囲気づくりを行なっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康を損なわない程度の嗜好品を提供し、時には外食を取り入れながら、生活していく上で楽しみを持ってもらえるよう支援している。	○ 買い物に出掛けなるべく希望に沿った提供に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁が多いからといって安易におむつやリハビリパンツを使用するのではなく、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行っており、羞恥心に配慮した声がけを徹底している。	○	排泄パターンをチェック表により把握し、前誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。また、利用者によっては同姓の介助を心掛けている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の可否については本人の自己決定を優先し、突発的な入浴の希望があった時も臨機応変に対応できるよう職員間で連携を図っている	○	利用者の希望が重視され、回数や入浴時間の制限はしておらず、毎日気持ちよく生活できるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活暦にあわせ、職員の都合に合わすことなく、本人の好きな時間に休めるよう支援し、就寝された時は騒音を出さないよう支援している。	○	入居者一人一人の睡眠パターンが把握されており、不眠傾向の方へは生活の働きかけが行なわれ、安眠が得られるよう支援を行なっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の「できること・できないこと」を見極め、毎日の習慣として楽しみながらできることの支援をしている。	○	毎日の活動として個々の力量に合わせて取り入れるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の金銭管理能力を把握し、その力量に応じた対応を行なっている。	○	金銭管理が出来る利用者には、所持していただき買い物の際、使えるように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、園芸、買い物に出掛けたり、ホーム外に出る事で気分転換を図り、毎日の生活が単調にならないよう支援している。	○	入居者の希望に沿い馴染みの場所へ出掛けたり、天気の良い日は、車椅子の方も戸外へ出るよう積極的に支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設行事の参加、花見、いも煮会、外食を企画し利用者や家族のコミュニケーションを図り、刺激のある生活が出来るよう支援している。	○	利用者の状況に応じ、無理のない範囲で家族と出掛けられる機会の援助に努めている。また、家族の許可を得て職員と、海へ釣りに出掛ける支援も行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり手紙を書いたりの支援を行っている	○	利用者様の意思行いたいことは、これからも尊重し取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人が自由に訪問でき居室でのだんらんが常時出来るようになっている。	○	家族、友人との外食の支援を行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束がないケアを行っている。	○	転落の危険がある方へは、骨折等の予防のため、やむ負えずベット柵を使用する場合は、書面により家族の許可を得るように取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロック式になっているが、天気の良い日は解錠している。	○	利用者の外出傾向を把握し、孤立、閉鎖的にならないよう努めているが、事故防止(外部からの侵入防止)のため普段は施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の居室での様子確認を含め、定期的に安全確認をおこなっている。	○	常時利用者の所在を把握し、職員はさりげない配慮で安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一部施設側で保管、管理しているものもあるが、利用者の状況に応じ対応している。	○	安全確保をしつつ、利用者の状況に合わせて対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬についてはダブルチェックの徹底と見守りの強化を行っている。	○	利用者の身体状況をよく把握し、対応するよう指導の取り組みが行われている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の個々の身体状況により、急変時の対応の仕方をその都度申し送り、それぞれに確認はされているが、特別な訓練は行なわれていない。	○	急変や事故発生時にスムーズな対応が出来るよう、訓練を定期的に行なえるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練等を定期的に行っている	○	地域で実施されている防火訓練に利用者も参加できるよう取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の最良の対応をよく説明し、その方にあった生活の支援を行なっている。	○	家族の意向も大切にし、安全に安心して暮らせるよう対応策を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員と連携を図り、早急な対応を心掛けている。また、速やかに家族、医療機関に連絡し対応法の検討を行なっている。	○	毎日の身体状況のチェックと状態を、全員が把握できるよう記録に残している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医意見書、処方箋の確認を行い、症状の変化や新薬の確認に努めている。	○	誤訳、飲み忘れに細心の注意を払い、名前、日付等のダブルチェックを行い、確認の上行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の状況を把握し、水分補給、食事の管理に工夫し、予防と調整を行なっている。	○	医療機関と連携を取りながら予防に努め、散歩、体操を取り入れながら予防に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせ支援されている。介助が必要な方には、スタッフの介助にて実施されており、月2回の口腔指導が実施されている。	○	食後の歯磨きやうがいの取り組みを行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を作成しており、体重管理は2週間に一度測定している。栄養バランスやカロリーは提携している管理栄養士により支援されている。また、入居者様の状態に合わせ、おかゆやミキサー食の提供を行っている、	○	本人の嗜好を考慮し、時には本人の食べたい食品を購入し支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに従い遂行している。	○	利用者、職員、面会者も手洗いうがいを遂行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルに従い遂行している。	○	毎日、担当者がマニュアルに従い遂行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りの表札が掛けられ、家庭的な雰囲気作りの工夫に取り組んでいる	○	親しみやすい玄関を心掛けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、浴室の入り口にはのれんが掛けられ、廊下の壁には手作りの物が飾られ、家庭的な雰囲気作りに配慮している。	○	テレビ音や声のトーン、室温に配慮すると共に心地よく過ごせる工夫に取り込んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースや廊下、玄関に椅子やソファを設置し、居場所に対する配慮を心掛けている。	○	食堂の席の配置を十分に考慮し、入居者一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ依頼し、なじみのものを持ってきて頂き、本人が落ち着いて過ごせるように配慮している。	○	本人が今まで使用してきた家具など持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況や季節にあわせ、温度管理を行なっている。	○	換気はまめに行い、外気温と差がないよう配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、障害物や危険物は除去し、残存機能の維持に努めている。	○	居室にも手すり設置の配慮に取り組んで生きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには見やすい位置に大きく表示し、各部屋にも表札やのれん、写真等を貼り工夫している。	○	一人ひとりの力量に合わせた取り組みを行なっている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節を感じられるように、草花を植え楽しめるように工夫している。	○	利用者と職員が楽しみながら、一緒に草取りをすることで、活動の場となるよう取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人の希望や意欲を大切に、利用者の視点に立った個別の支援に力を入れて取り組んでいます。入居様が日常生活において閉鎖的にならないように地域の方々とふ

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まず。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含まず。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含まず。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あやめの里
(ユニット名)	3丁目
所在地 (県・市町村名)	宮城県多賀城市留ヶ谷3丁目23-15
記入者名 (管理者)	星 ひとみ
記入日	平成 20 年 10 月 6 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念の他に、ユニット毎の理念を上げ実施している。	○	ユニットの理念として、一人ひとりに合わせたケアをし、毎日楽しく生活出来るよう取り組んでいる。又、地域のイベント等の参加も積極的に行なっている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	フロア長会議やカンファレンスで話し合う機会を設け、実践の中で活かされるよう方針を確認している。	○	カンファレンスの中で理念に根ざしたケアを行なうよう、話し合いをもち職員間の連携を心掛けている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	定期的に運営推進会議を開催し、地域密着型施設として理解して頂けるよう取り組んでいる。	○	地域行事の参加や広報誌の発行により、理解していただくよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の際、気軽に挨拶を交わしたり日常的な交流を行なっている。	○	近所の方の家庭菜園より野菜を頂いたり、日常的な付き合いをしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会への加入、地域行事への参加、ボランティアの方による踊りの会の開催など交流に努めている。	○	事業所が開催している「いも煮会」へ町内の子ども会にも参加していただくよう予定している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が認知症サポーターとして登録し、認知症になっても安心なまちづくりの一翼を担うキャラバン・メイトとして講習を行なった。	○	今後も施設として地域に貢献できる事はないか、運営推進会議等で話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。改善すべきことがある場合も、常時話し合い改善に取り組んでいる。	○	評価、指導に対し即、対策を立て改善に向けての話し合いを行っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設側の報告及び参加者からの意見、要望を受け、質の向上に活かしている。家族様からの意見や要望は必ず実施し、結果の報告を行っている。	○	ご家族や地域の方から出た意見、要望について話し合い即、より良いサービス提供に向け実施している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャー連絡会議への参加、困難事例の相談等を行い支援して頂いている。	○	今後も連携や話し合いを持ち、施設の理解を深めて頂くため、積極的に関わりを持っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会には設けてはいないが、制度自体を理解しており、入居者様の中には実際に活用している方もいる。	○	必要な方には活用できるよう支援を行なっている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの中で自己のケアを振り返り、虐待につながるケースがないようよく話し合っている。	○	ネグレストに関しても注意を払い、全員が理解を深め認識していくよう常に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に分かりやすく書かれていると共に、契約の際分かりやすく十分な説明を行なっている。	○ 契約時以外にも、不安や疑問点解消のため随時、納得がいくよう説明を行なっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の苦情、不満をはよく聞き入れ改善に努めている。利用者様に最良の方法を選択していただいたり、職員で話し合いを持ち利用者様に提示し運営に反映させている。	○ カンファレンス等で問題点を話し合い、情報の共有に努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者様の生活、健康状態は状況に応じ随時報告をしている。金銭管理に関しては、出納状況を毎月送付している。職員異動や退職は運営推進会議等で必ず報告している。入居者様には個々に合わせ報告をしている。	○ 家族の来訪時には必ず具体的に報告しており、来訪が困難な家族に対しては、電話で状況を伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で不満、苦情を聞き入れ問題解決に向け討論し改善に取り組んでいる。	○ 第三者委員会を設置し苦情相談の窓口になって頂き、サービスの質の向上に努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、フロア長会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	○ 職員の意見や提案は出来る限り運営に反映されるよう努力している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1の人員基準をもとにケアに支障をきたさないよう調整に努めている。早朝や夜間の状況変化にも柔軟な対応を行なっている。	○ 入居者様や家族の突発的な状況に応じ、迅速に対応できる体制を整えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員移動はフロア内の状況を見極め、入居者の心理的負担にならないよう必要最小限の範囲で行なっている。	○ 入居者様の心理的負担に配慮し、一人一人の状態、対応の仕方について、職員は密に連携をとり取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内部研修の実施や外部研修への参加の確保に努めている。	○	認知症実践者研修等の受講など、正社員やパート職員に入社順に受講してもらい、チームの一員として参加の機会を設けている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者と定期的に交流を持ち情報交換に努めている。	○	2市3町のケアマネジャー協会に加入し交流を図っている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の相談は管理者、フロア長により対応されている。	○	ストレスを軽減するため職員間で交流をもち軽減に努めている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修の充実をし個々のスキルアップを図る	○	職員一人ひとりの功績や実績を踏まえ、評価されるよう形にしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の面談において、生活歴、ニーズ、不安な事を把握し信頼関係を築く努力をしている	○	常に本人と会話を持つよう心掛けており、ニーズにあったサービスと環境づくりに努力している。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前の相談時や来訪時に家族のニーズ、不安な事をよく聞き受け止めるよう努力している。	○	不安を取除いて頂けるよう常時相談を受けると共に、親しみやすい雰囲気作りを行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている事を見極め、調整しながら必要に応じ外部のサービス利用も行なっている。	○	福祉用具や通院介助等の利用も個々に合わせ行なっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に雰囲気を味わって頂くため、家族や担当ケアマネと十分に話し合い、本人が見学に来れる様調整も行なっている。また、体験入居の支援も行っている。	○	入居前でもご本人に施設に訪訪していただき、個々にあった柔軟な対応をして安心していただけるよう取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者様と同じ時間や空間を通じて得意の分野で力を発揮できるよう導く努力をしている。	○	入居者様から昔の生活文化を教えていただいたり、料理や子育て等についても学ぶ事ができ、お互いに感謝の気持ちを持ち過ごす事ができている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時情報交換を行なっている。不安や疑問点に対し共に親身に考え、信頼の構築に努めている。	○	行事や外食の際、家族に参加して頂いたり極力一緒に過ごせるよう取り組んでおり、参加困難な家族には日々の生活の様子を伝えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族間の情報を可能な限り収集し、関係の理解を深め、双方がより良い関係作りの支援をしている。	○	行事への参加、一緒に過ごせる空間づくりの提供を行なっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人など常時面会可能であり、行事等の参加支援を行なっている	○	家族や友人宅、馴染みの場所への訪問支援など、関係維持に努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑に取れるよう、性格や相性を配慮しお互い支えあえるように努めている。	○	職員は利用者同士の関係や相性を把握しており、それに合わせた対応に取り組む事ができる。又、トラブルが大きくなるように、職員の介入を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談等は随時行ない、継続的な付き合いが出来るよう努めている。	○	困難なことがあり相談を必要としている方に相談業務を行なっている。また、退去者ご本人から元気になっていると連絡が入る場合があり、関係継続に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い生活暦や、本人の意向を重視し支援に取り組んでいる。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い個々の情報を整理するとともに、モニタリングを実施し経過の把握に努めている。	○	本人の意向、視点に立ちケアを行なっているが、困難な場合は家族から聞き取りを行い把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状況変化の記録をおこなっており、健全に生活を送れる様に努めている。	○	観察、記録、申し送り等密に行なっており現状の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて本人の視点で意見交換をおこない、家族の意向も反映させながら、介護計画を作成している。	○	本人の視点に立った必要な支援を含めた、介護計画の作成は実施され取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族等と意見交換を行ないながら、必要に応じて3ヶ月に一度の見直しを行なっている	○	状態に変化があった場合は家族や関係機関の助言も頂きその都度見直しを行なっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況簿、申し送りノート、さらに状態を詳細にするための、個人情報ファイルを作成し情報の共有を行なっている	○	職員がいつでも記入でき情報を共有できるように個別の情報ファイルを活用し全員で検討し介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には、状況に応じ買い物、通院、送迎、外出の付き添いをおこない、柔軟な支援をおこなっている。	○	必要に応じ出来る限り柔軟な支援に取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館、ボランティアは定期的にご利用しており、民生委員や地区の区長とも協力しながら支援している。	○	定期的にボランティアによる演芸会の開催を行い、地域資源の活用をし支援している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、他事業所のケアマネジャーと連携を取り支援しに取り組んでいる。	○	在宅マッサージや福祉用具等の支援に取り組んでいる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネ連絡会議等の参加や困難事例の相談において協働している。	○	今後も連携を取りながら、積極的に協働して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科、歯科医師がホームドクターとして確保され、また個人のかかりつけ医師と連携しながら支援している。	○	本人、家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人のかかりつけ医である認知症専門医に定期的に支援して頂いているケースがある。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医師、看護師と密に情報交換を行い、指示を仰ぎながら健康管理の支援を行なっている。	○	かかりつけ医と提携医師との情報交換を行い支援していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と終始連携を取り、早期退院に向けたとりくみを行なっている	○	早期退院に向け施設側も受け入れ態勢を整え、医師と連携を取り努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、早期より状況の変化に応じて、家族、医師、関係機関と話し合いを行なっている。	○	重度化に伴って看取りに関して書面上の取り決めを行っており全員で方針を共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極め、医療機関と連携をとり統一した方針で行なっている	○	状態の変化に応じ、医療機関の受け入れ態勢等の検討を段階的に話し合いを行い取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の意向を尊重し十分な話し合いを持ち、情報交換に努めている。	○	本人にかかわる関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行なうことで、住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様を尊重した声かけや居室への出入りは了解を得て行なっている。落ち着いた態度と笑顔で接する事を基本としている。個人情報の重要性は全スタッフが理解しており、十分注意を払い取り扱っている	○ 入居者一人一人の性格を見極め、相手に合わせた言葉掛けを行い、スピーチロックにならないよう取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意思を最優先し、自分で方向付けられるような声かけを行なっている。	○ 入居者が意思表示しやすい環境や場面づくりの支援を行なっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のペースが尊重された柔軟な支援が行なわれている。	○ 一人一人のペースは異なるが、その人なりのペースがあり、歌を唄ったり、昼寝や会話を楽しんだり思い思いのペースが尊重され、それを全スタッフは大切に考え希望に沿って支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望があれば、定期的に来訪してくれている床屋に散髪をしていただいている。また、個別にカラーリングの支援も行っている。	○ 近所の床屋が2ヶ月に一度来訪し散髪を行なっている。また、本人の思いを尊重する支援も取り組んでいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の身体状況にあわせ、嚥下食の提供も行なっており、後片付けも個々の力を発揮できるよう努めている。	○ 利用者一人一人の状態に合わせて、食事の提供が行なわれている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康を損なわない程度の嗜好品を提供し、時には外食を取り入れながら、生活していく上で楽しみを持ってもらえるよう支援している。	○ 買い物に出掛けなるべく希望に沿った提供に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁が多いからといって安易におむつやリハビリパンツを使用するのではなく、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行っており、羞恥心に配慮した声がけを徹底している。	○	排泄パターンをチェック表により把握し、前誘導を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の可否については本人の自己決定を優先し、突発的な入浴の希望があった時も臨機応変に対応できるよう職員間で連携を図っている	○	利用者の希望が重視され、回数や入浴時間の制限はしておらず、毎日気持ちよく生活できるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活暦にあわせ、職員の都合に合わすことなく、本人の好きな時間に休めるよう支援し、就寝された時は騒音を出さないよう支援している。	○	入居者一人一人の睡眠パターンが把握されており、不眠傾向の方へは生活の働きかけが行なわれ、安眠が得られるよう支援を行なっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の「できること・できないこと」を見極め、毎日の習慣として楽しみながらできることの支援をしている。	○	毎日の活動として個々の力量に合わせて取り入れるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の金銭管理能力を把握し、その力量に応じた対応を行なっている。	○	金銭管理が出来る利用者には、所持していただき買い物の際、使えるように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、園芸、買い物に出掛けたり、ホーム外に出る事で気分転換を図り、毎日の生活が単調にならないよう支援している。	○	入居者の希望に沿い馴染みの場所へ出掛けたり、天気の良い日は、車椅子の方も戸外へ出るよう積極的に支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設行事の参加、花見、いも煮会、外食を企画し利用者や家族のコミュニケーションを図り、刺激のある生活が出来るよう支援している。	○	利用者の状況に応じ、無理のない範囲で家族と出掛けられる機会の援助に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をしたり手紙を書いたりの支援を行っている	○	利用者様の意思行いたいことは、これからも尊重し取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人が自由に訪問でき居室でのだんらんが常時出来るようになっている。	○	家族、友人との外食の支援を行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束がないケアを行っている。	○	転落の危険がある方へは、骨折等の予防のため、やむ負えずベット柵を使用する場合は、書面により家族の許可を得るように取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロック式になっているが、天気の良い日は解錠している。	○	利用者の外出傾向を把握し、孤立、閉鎖的にならないよう努めているが、事故防止(外部からの侵入防止)の為に普段は施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の居室での様子確認を含め、定期的に安全確認をおこなっている。	○	常時利用者の所在を把握し、職員はさりげない配慮で安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみ等は利用者の手の届かない所に保管している。はさみや爪切りは要望があれば、お貸しし付き添い見守るようにしている。	○	安全確保をしつつ、利用者の状況に合わせて対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬についてはダブルチェックの徹底と見守りの強化を行っている。	○	利用者の身体状況をよく把握し、対応するよう指導の取り組みが行われている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	急変や事故発生時にスムーズな対応が出来るよう、訓練を定期的に行なえるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	地域で実施されている防火訓練に利用者も参加できるよう取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	○	家族の意向も大切にし、安全に安心して暮らせるよう対応策を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	毎日の身体状況のチェックと状態を、全員が把握できるよう記録に残している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○	誤訳、飲み忘れに細心の注意を払い、名前、日付等のダブルチェックを行い、確認の上行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	医療機関と連携を取りながら予防に努め、散歩、体操を取り入れながら予防に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	今後も毎食後の口腔ケアの支援を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を作成しており、体重管理は2週間に一度測定し支援している。また、栄養のバランスやカロリーは提携している管理栄養士により支援されている。入居者様の状態に合わせ、おかゆやミキサー食の提供も行っている。	○ 本人の嗜好を考慮し、時には本人の食べたい食品を購入し支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに従い遂行している	○ 利用者、職員、面会者も手洗いうがいを遂行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルに従い遂行している。	○ 毎日、担当者がマニュアルに従い遂行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りの表札が掛けられ、家庭的な雰囲気作りの工夫に取り組んでいる	○ 親しみやすい玄関を心掛けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、浴室の入り口にはのれんが掛けられ、廊下の壁には手作りの物が飾られ、家庭的な雰囲気作りに配慮している。	○ テレビ音や声のトーン、室温に配慮すると共に心地よく過ごせる工夫に取り込んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼のスペースや廊下、玄関に椅子やソファを設置し、居場所に対する配慮を心掛けている。	○ 食堂の席の配置を十分に考慮し、入居者一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ依頼し、なじみのものを持ってきて頂き、本人が落ち着いて過ごせるように配慮している。	○	本人が今まで使用してきた家具など持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況や季節にあわせ、温度管理を行なっている。	○	換気はまめに行い、外気温と差がないよう配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、障害物や危険物は除去し、残存機能の維持に努めている。	○	居室にも手すり設置の配慮に取り組んで生きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには見やすい位置に大きく表示し、各部屋にも表札やのれん、写真等を貼り工夫している。	○	一人ひとりの力量に合わせた取り組みを行なっている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節を感じられるように、草花を植え楽しめるように工夫している。	○	利用者と職員が楽しみながら、一緒に草取りをすることで、活動の場となるよう取り組んでいる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

語りかけを大切にし、入居者様の笑顔が沢山引き出せるような関わりをしています。目配り気配りを一人一人のスタッフが心掛け、精神面や身体的（医療面）に関してもき